

令和4年1月18日(火)

奈良新聞

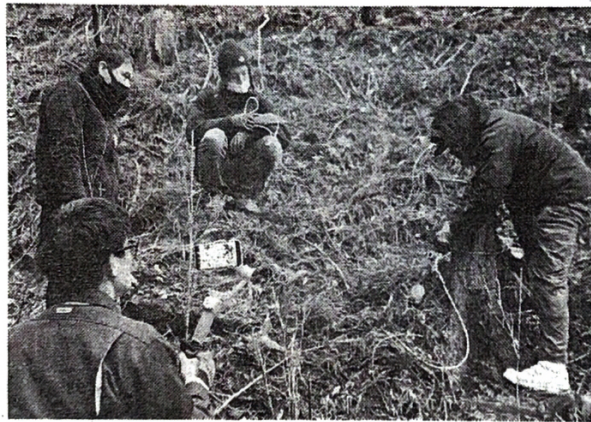
狩猟に親しみを

宇陀で市など体験イベント

林業の獣害も学ぶ

有害鳥獣による林業被害が深刻化する中、狩猟に親しみをもちてもらおうと宇陀市で16日、シカの狩りなどの体験イベントが催された。狩猟者を増やし、将来的に獣害に悩む林家らとつなげようと地元森庄銘木産業(同市菟田野)が市

と初めて開催した。奈良、大阪、兵庫から男女13人が参加し、シカの狩猟や解体作業を体験した。参加者は狩猟歴25年以上の市職員広田晶一さん(49)ら講師とともに、菟田野地域の山中に入った。わな猟では、足跡やフンなどから



山中にくくりわなを設置する狩猟体験の参加者ら＝16日、宇陀市菟田野

習性を考えて仕掛けるように指導を受け、くくりわな

を設置した。樹皮を食べられた樹木など林業被害の現場も目の当たりにした。

事前に捕獲され、血抜きをして内臓を取り除くなどの処理をした2頭の鹿の解体作業も体験。ナイフで慎重に毛皮を剥いだり、肉を部位ごとに切り分けたり。その後、しゃぶしゃぶや低

温ローストして食べた。

大阪市の会社員岡田そのさん(25)は狩猟に関心があつたものの、周囲に聞ける人がおらず、SNSで募集をみつけて参加した。「解体はシヨッキングな光景だったけれど、食肉への感謝の気持ちも沸いた。わなの狩猟免許を取得したい」と話していた。

次回は来月20日を予定。問い合わせは、森庄銘木産業、電話0745(84)2021。